

平成 25 年 5 月 10 日

教育開発推進機構長殿

学部長 宮内 靖彦

## 平成 24 年度 学部 FD 推進事業報告書

標記のことに、以下の通り報告いたします。

学 部 名	法学部
事 業 名	法学部教育における本格的 PDCA サイクル始動のための準備作業
平成 24 年度実務担当者名	菊田 真司
<b>事 業 の 概 要</b>	
<b>【計画性】当初計画通りに事業を推進できたか？</b> （いずれかにチェック）	
<input type="checkbox"/> 計画通りであった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね計画通りであった <input type="checkbox"/> あまり計画通りではなかった <input type="checkbox"/> 計画通りではなかった	
<p>（以下、<b>本年度の推進事業の概要</b>について、年初「申請書」の「内容」「目的」「計画」、及び前記【計画性】の自己評価、さらに別添の「経費執行表」における予算の執行結果に照らして記入してください。）</p> <p>2008 年中教審答申以降、学部教育には、「単位制度の実質化」、「厳格な成績評価」を前提としたうえで、「学部の教育目標」を達成するために「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施（大学設置基準 25 条の 3）」、および、適切な成果検証と改善を常態化する「教育の質保証体制の構築（PDCA サイクルの実効的稼働）」が求められている。</p> <p>今年度の FD 推進事業においては、この法学部における PDCA サイクル実現のための準備作業として、以下の事業を計画に基づいて実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●平成 24 年 8 月 1 日(水) 第 1 回 FD 研究会 申請書「計画」A に基づいて、ティーチング・ポートフォリオ作成の意義についての情報の分析と共有を行い、申請書「計画」C に基づいて、具体的なポートフォリオ作成のフォーマット等を定めて、各教員に平成 24 年度前期分の科目について作成を依頼した。</li><li>●平成 24 年 10 月 24 日(水) 第 2 回 FD 研究会 申請書「計画」A に基づいて、文部科学省中央教育審議会平成 24 年 8 月 28 日答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』の分析を行い、学部教育に求められているものについての情報の分析と共有を図った。</li><li>●平成 25 年 1 月 28 日～2 月 6 日 学生アンケートの実施 申請書「計画」B に基づいて、JCSS アンケートの質問項目及び回答データについて分析を行った上で、学生アンケートの原案を作成し、試行的に実施した。</li><li>●平成 25 年 2 月 27 日 第 3 回 FD 研究会 申請書「計画」A に基づいて、上記中教審答申でも取り上げられている「アクティブ・ラーニング」の意味と、法学部教育における応用可能性について、教育ジャーナリスト・友野伸一郎氏を招聘して講演会を行った。また、申請書「計画」C に基づいて、各教員が作成したティーチング・ポートフォリオについて、その内容の確認と若干の分析を行い、その意義を確認するとともに、後期分についての作成を依頼した。</li></ul>	